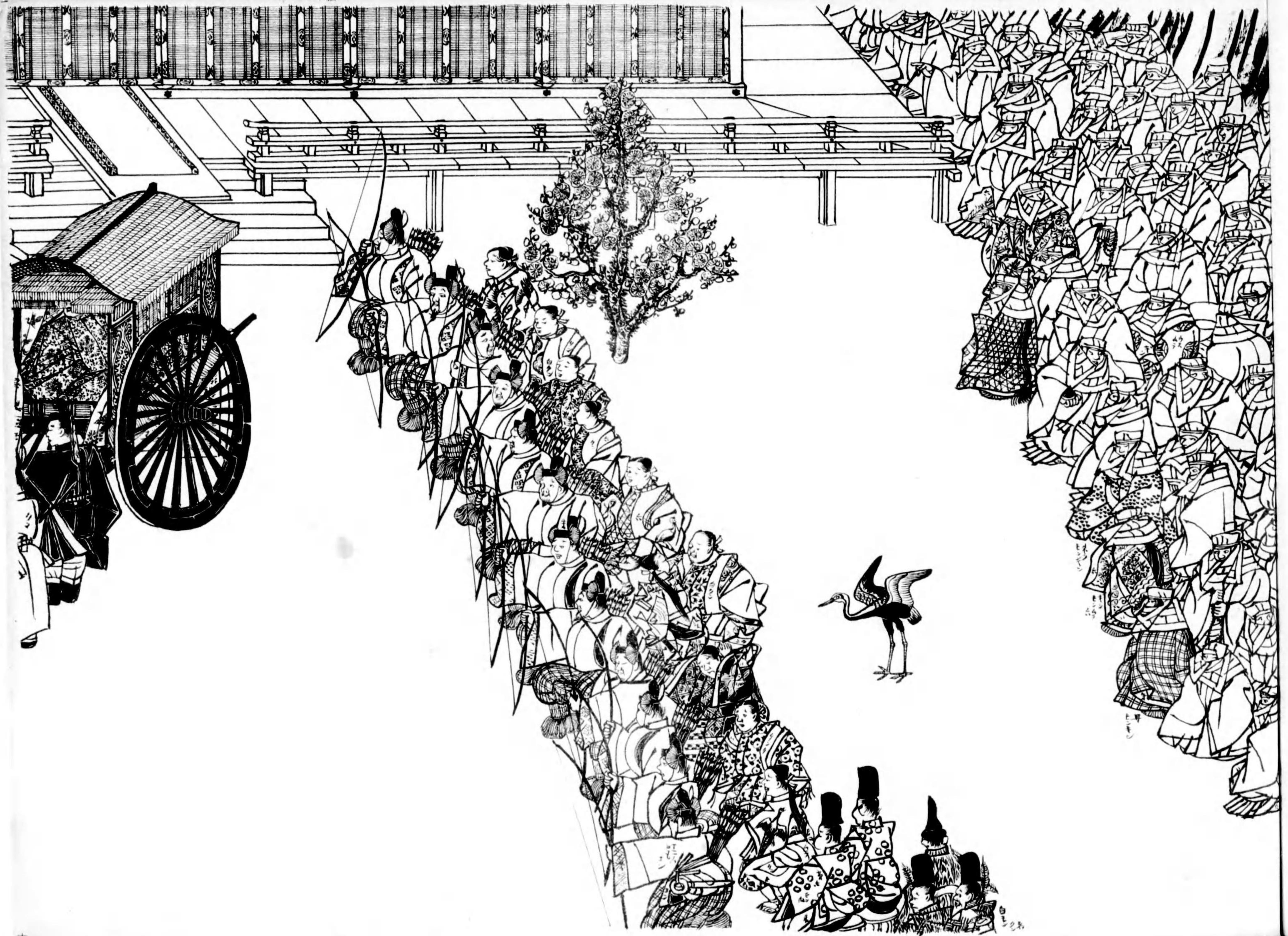


春日權現驗記繪卷第二

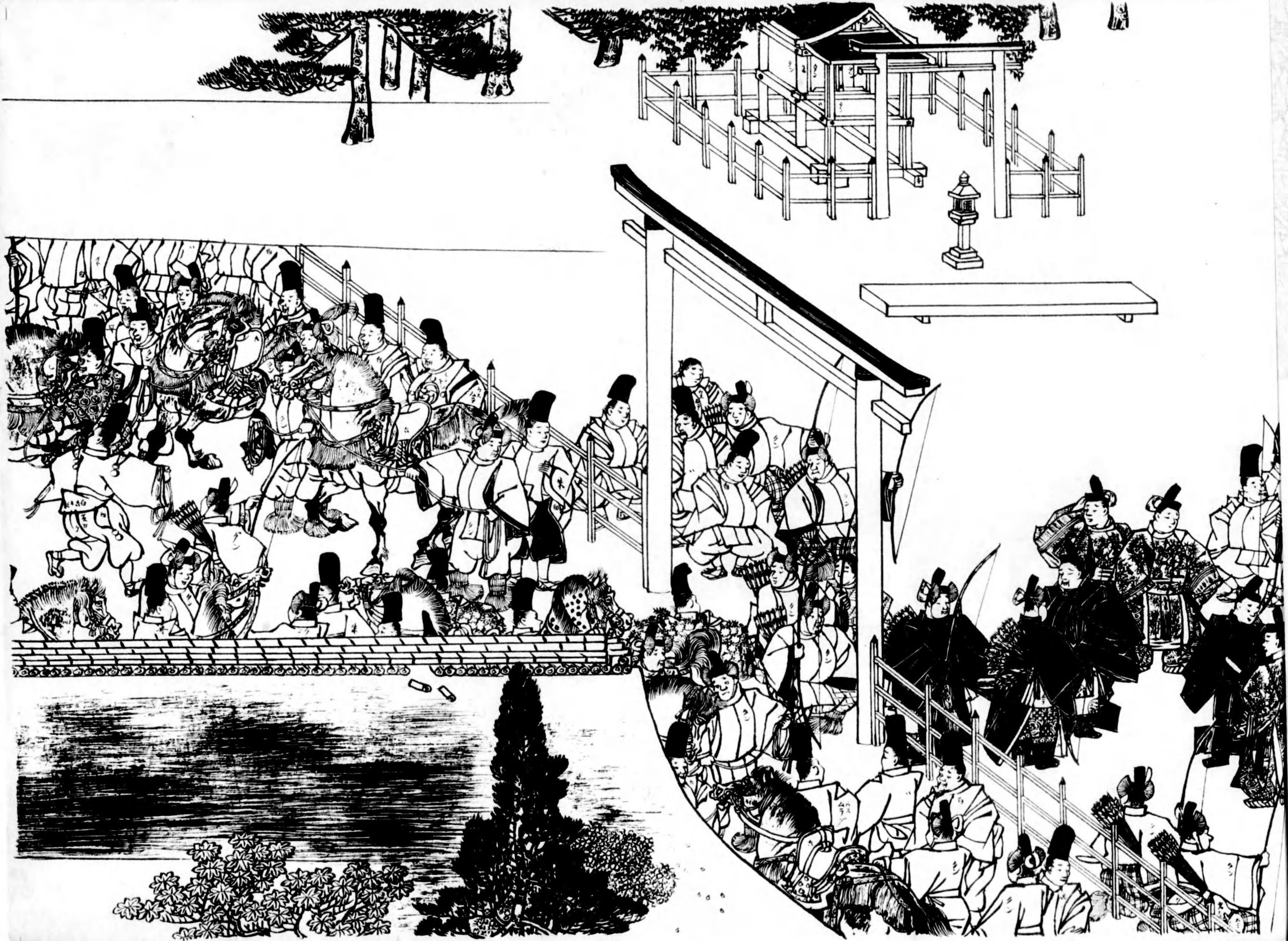
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

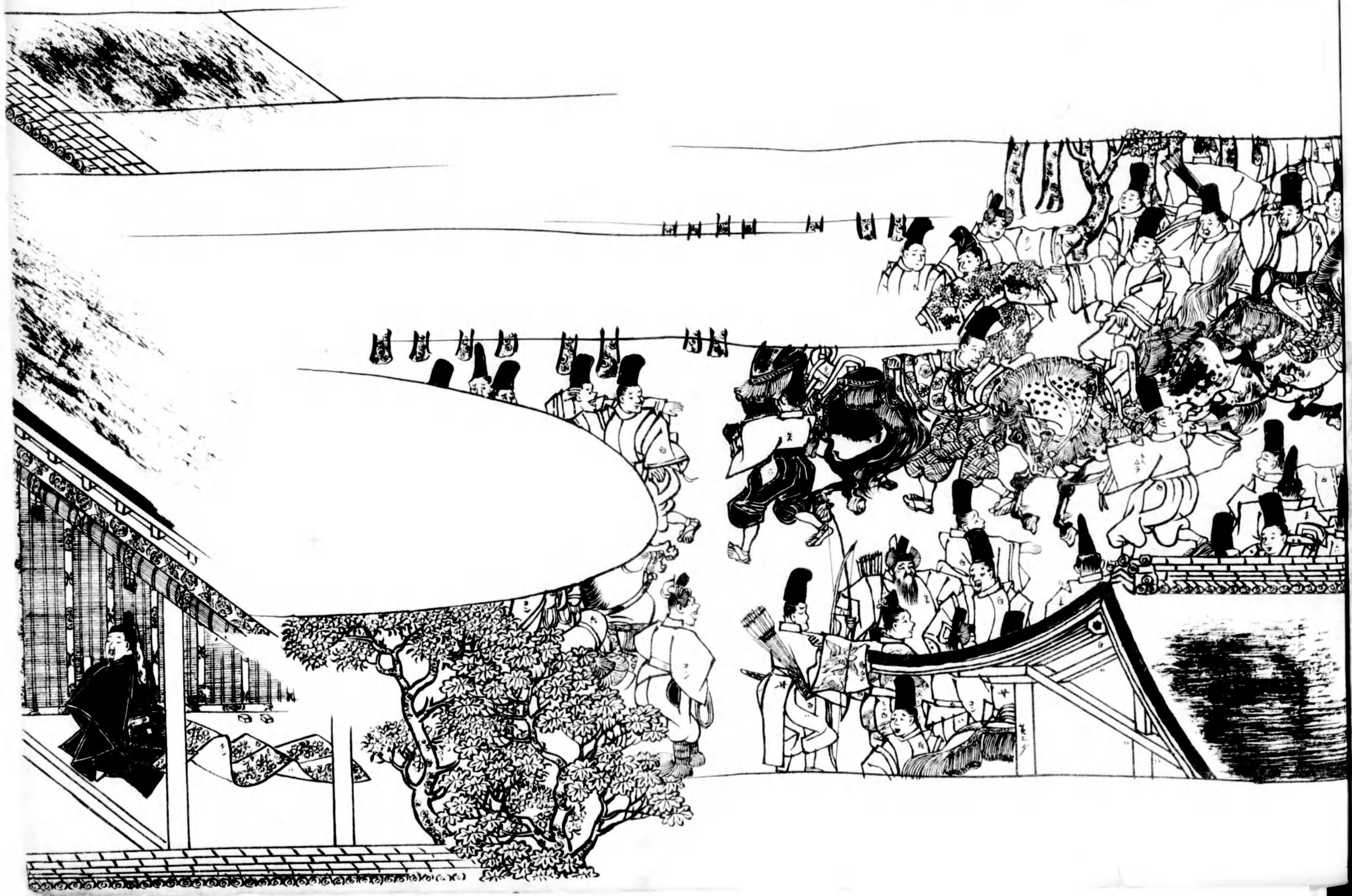
去年乃清願小よりて寛治七年三月葬人一  
負をりりり多春日社小清幸不事小  
いひしき儀式を以てしる案内大臣下所  
葬小は左大臣陪後の列小加立先例にあり  
かく神威と楊言りりり其後康和年中  
一切經論をこせりして祐小經藏行して百は  
僧を不して轉讀をら多越前國河口庄を  
かく供料小寄進殊らるるく先自れたる禮を  
謝申こはまうしありこりて代清教神化  
小に臨幸を連綿うてを極るに相か又  
伊房のふけるん夢の法をありて清經藏の  
以類をいふに不きをもちりり多後清院宣わ  
りてり伊たさして經藏乃南門小よりして不  
現在よりいひせ





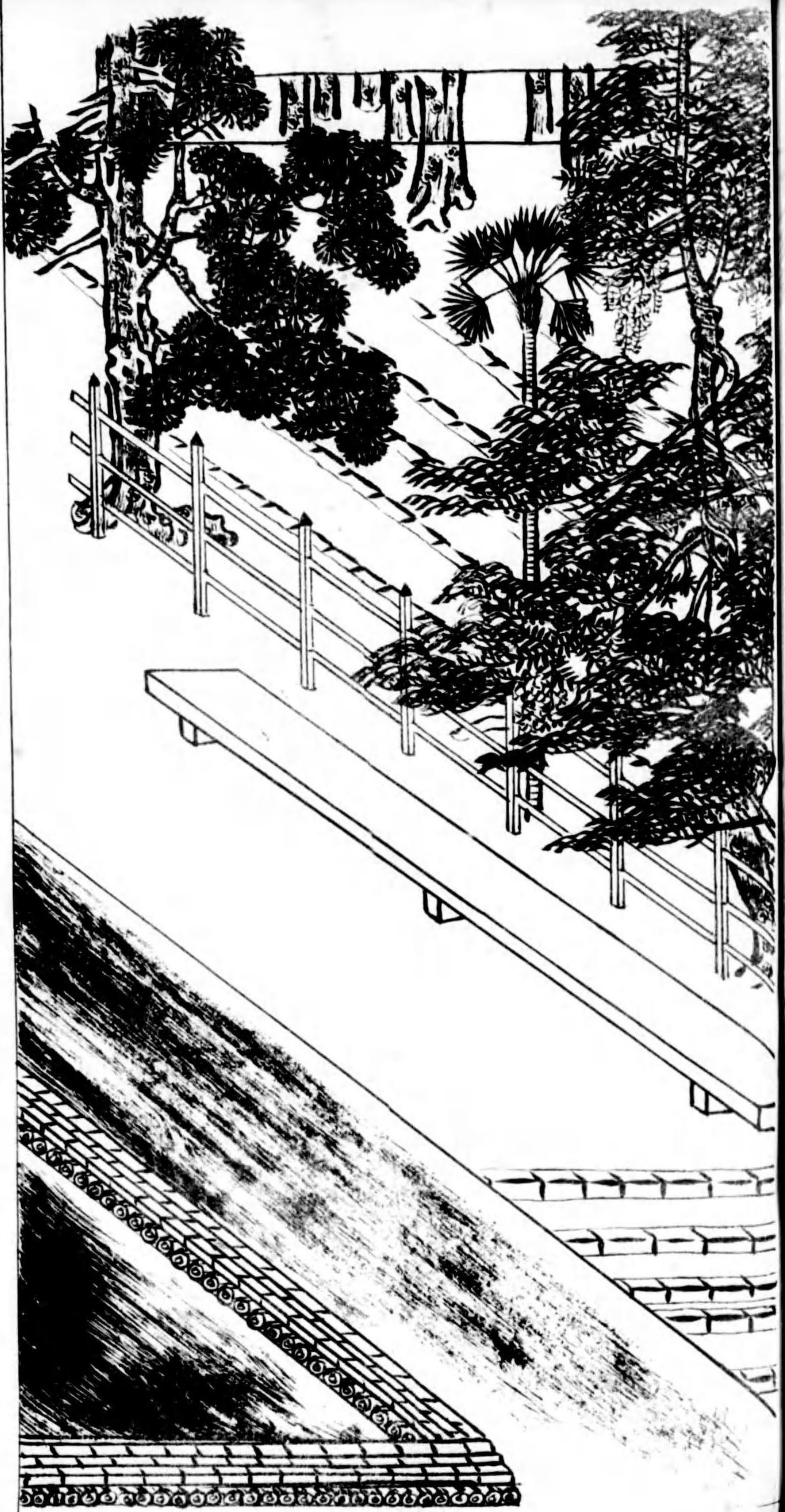












永元元年延曆寺乃衆徒清水寺とやきふ  
興福寺乃末寺とらふにありて平治の御時  
かりて京徒衆向ふては家平をいつりて  
しをふせり我朝風小もくは東駒  
官兵と合戦をいしすよ皇の御に送鱗  
都を退討せらるるまの沙汰わらう  
此時從理大夫頼朝  
卿仙洞乃を臣下てはるる  
恐りて我朝中なる  
我君の聖運ハ專者日大明神ハ冥助也  
いりて  
神徳をたしめしけり給ふ事  
中何事小も仰れし  
君の御時かく御時  
なりし時  
天井小震動事

侍と大いなる一途なまじき、海に群るる侍と大  
神官のまじりたる侍とをさへて海にまじ  
春日に大明神也に侍せらるる侍とをさへて海にまじ  
わくまじり申す侍とをさへて海にまじり  
侍とをさへて海にまじり





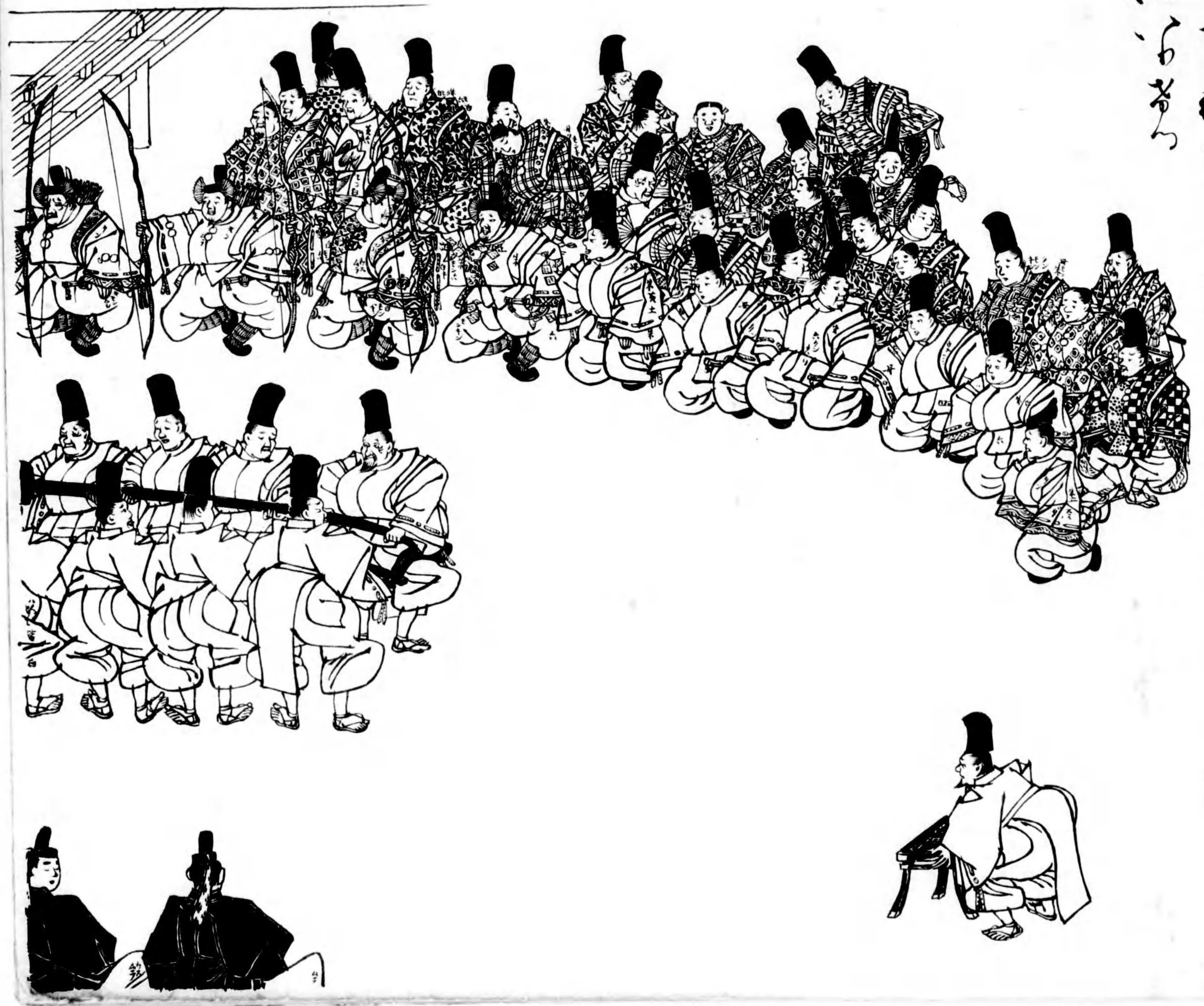
Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a transcription or commentary related to the illustration. The text is written in a cursive style and is partially obscured by the binding of the book.

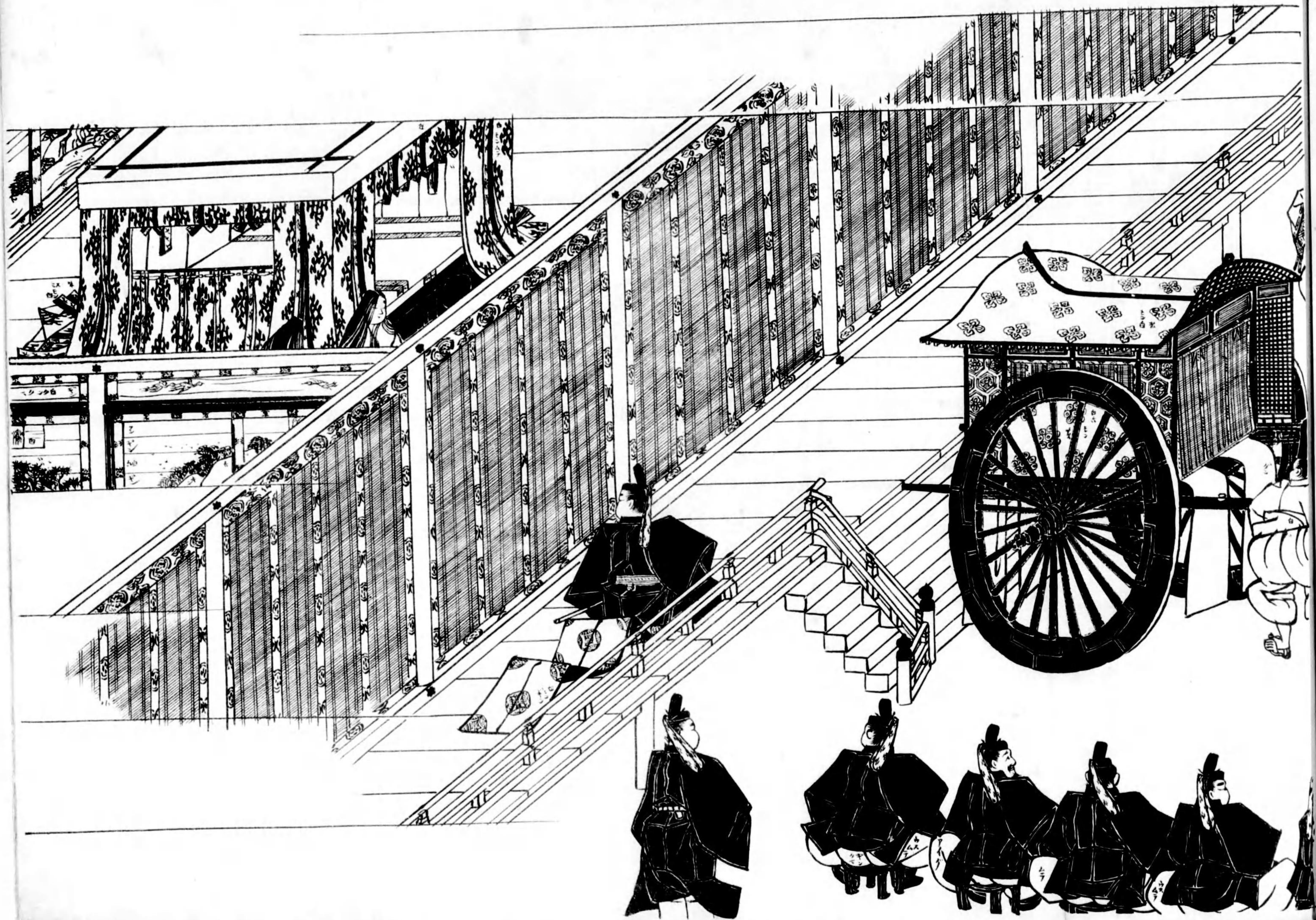




二条明白殿仕乃時釘を以てし給へ  
 且つ不其房の趣り入てこもり海をせし  
 志を以て明白殿をももむはなすもて釘  
 御いさ乃志た小をまてかえり給へ女房  
 二海もあや一たてゆまに御車りもあ  
 御成りもあて海から想ふ花はさくらもあ  
 まし東恩ての海り入てし。あまのこも  
 春日乃大明神れきり。あまのこも海もあ

早稲田 給に楚州人申もあつたから此處ハ  
 寺社をあらじふ法心けりるくく寺よわ使さる  
 かつ子細かくし給するを給てのち楚州膳なり  
 海もあら









不二休

大正九年十一月廿五日印刷  
大正九年十一月廿五日發行 定價金壹拾圓

東京市神田區神田町三丁目九番地  
發行者 田中 有美

東京市神田區神田町三丁目九番地  
印刷者 小澤 敬男

東京市神田區神田町三丁目九番地  
發行所 田中 文庫

東京市神田區神田町三丁目九番地  
發賣所 東京美術館

東京市神田區神田町三丁目九番地  
發賣所 芸艸堂

東京市神田區神田町三丁目九番地  
發賣所 芸艸堂支店



終

